

✧ 海外ニュース ✧

イタリア 2023年11月6日 Il Sole 24 ore

■ Tea Tek グループと Enea 社、都市を通る道路に太陽光パネルの設置を計画

Da Tea Tek ed Enea i pannelli fotovoltaici per le vie delle città

Tea Tek グループと Enea 社は、太陽光パネルを高速道路沿いに設置する計画を実施中である。イタリアの全高速道路の10%に太陽光パネルを設置するだけで、20 Gw を超える電力を生産することが可能になるという。極端な天候状況にも対応できる構造を備える。パーキングエリアなどに設置される太陽光パネルには、センサー装置が具備され、交通状況や車両速度に関する情報も収集できるという。スマート・シティなど将来の自動運転車の適用にも役立つとされている。

イタリア 2023年11月8日 ANSA

■ 高速道路管理運営会社 Aspi, 100 カ所の電気自動車充電ステーションの設置計画を完了

Aspi, concluso piano d'installazione delle 100 stazioni ricarica

高速道路 A14 (ボローニャとタラント間) のベヴェノ・サービスエリアにおいて 200 kW の 4 カ所の充電所設置工事を終えて、100 カ所の電気自動車充電ステーションの設置計画が完了した。これにより電気車両の充電を高電力で実施することが可能になり、Aspi による工事が実を結んだ。充電ステーションの設置計画自体は 2021 年 5 月に開始されていた。

米国 2023年11月9日 Roads & Bridges

■ バイエリア当局が全車線のフリーウェイ通行料を要請

Bay Area Officials Push for All-Lane Freeway Tolls

バイエリアのメトロポリタン交通委員会当局は、渋滞緩和と炭素排出抑制を目的としてフリーウェイ全車線通行料への要請を新たにしている。ロサンゼルス、ニューヨーク、ロンドンを含む他のいくつかの都市もさまざまな成功の度合いはあるものの、すでに同様の対策をとっている。同当局は、全車線通行料徴収が実施された場合、年間約 10 億ドルをもたらすことができると見積もっている。これらの資金の一部は自動車運転者が道路移動をやめるのに好都合となるよう公共交通への投資に割り当てることができる。

英国 2023年11月9日 ITS International

■ 2032 年までに欧州に「7000 億ユーロをもたらす」通行料徴収：レポート

Tolling 'to bring € 700bn' to Europe by 2032 : report

トレイマス・コンサルティング・グループの調査によると道路利用者課金はその途上にあることが示唆されている。報告では、自動料金收受システム市場が 2032 年に 1 億 2,000 万の契約者を有し収益の 80% を占めるであろうと予測している。欧州諸国の多くは電気自動車の普及および結果として生じる燃料税の減少によって悪化するであろう財政危機に備えている。トレイマスは、9 カ国が現在全地球的航法衛星システムによる道路利用者課金システムを有しており、さらに欧州の 11 カ国が 2032 年までに道路利用者課金計画を実施するであろうと述べている。

英国 2023年11月13日 New Civil Engineer

■ M40 / M42 モーターウェイの改修がプレキャストコンクリートバリアのおかげで数カ月早く完了

M40 / M42 upgrade to complete months early thanks to precast concrete barriers

bmJV (バム・ナトルとモーガン・シンダル) により実施されている計画には、約 9 km の鋼製中央分離帯バ

リアのコンクリートバリアとの交換、新たな排水溝の設置、照明装置の交換が含まれている。National Highways は、この早期完了は多くの要因によるものであるが主に革新的なプレキャストコンクリートバリアの使用のおかげであるとしている。M40 / M42 計画の請負業者の多くは、M42 モーターウェイのさらに北に移り、同じ建設技術と資材を用いて同様の安全性向上を実現させていく予定である。

スペイン 2023年11月13日 EL PAÍS

■ アベルティス、契約を更新する方法を模索している

Abertis busca renovar sus concesiones

道路運営会社のアベルティスは負債を抱えたままプエルトリコで大きな契約を確定し、同社の2件の所有者である ACS社とベネトン家はギリシアでの失敗後、再び力を取り戻した。この契約でアベルティスはプエルトリコのメトロピスタにおいて、改修、運営、維持を4本の高速道路について実施することになる。全体的に見てアベルティスは、赤字で終わった契約と新たに始まる契約の両輪で運営を行っている。最初の運営権を安く売却しても新たに外国で始める契約で、後で大きく利益を得ることを期待しているのが現状である。

米国 2023年11月14日 Construction Dive

■ ロサンゼルス の 10 号線が 3～5 週間で再開通へ。取り壊しの必要なし

LA's I-10 to reopen in 3 to 5 weeks, no demo required

カリフォルニア州知事ギャビン・ニューサムは、ロサンゼルス の週末の火災で損傷を受けた 10 号線の区間は取り壊しの必要はないものの高架道路を支える柱を補強する「外科的」方法で修復が可能であると述べた。ただしニューサム知事は、当局がスパン部を取り壊し基礎から再建することをいまだ検討していることも強調している。運輸長官ピート・ブティジェッジは X (旧ツイッター) の投稿で、米運輸省が「何としても支援する」旨を述べ連邦政府のサポートを約束した。

スペイン 2023年11月15日 Cinco Días

■ ACS 社、系列のイリジウム社で高速道路建設からデータセンターの開発へと飛躍する

ACS salta con Iridium de las autopistas a la explotación de centros de datos

ACS 社の専務ファン・サンタマリア氏と社長フロレンティーノ氏は 2023 年の株主総会で、高速道路事業からデジタルインフラへの移行を発表した。サンタマリア氏は 2023 年 11 月 13 日(月)、専門家と投資家の前で「ACS 社は新しい世代へ向けて、インフラ整備の多様化に取り組むことにした」と述べた。系列会社のイリジウム社は、実際にマドリードのアルカラ・デ・エナレスで 6.7 ヘクタールの土地を確保し、データサイエンスの構築を行うとしている。ここで得られるデジタルインフラは、ACS 社も利用することになる。

フランス 2023年11月17日 APRR

■ 自動運転車でトールゲートバーを通過する方法を模索

Passer une barrière de péage en voiture autonome

2023 年 11 月 14 日(火)、高速道路運営グループ APRR と自動車部品会社ヴァレオが高速道路 A6 において、自動運転車について新たな実験を行った。トールゲートバーの通過に関して、課題があるからである。自動運転車が運転者の助けなしに、空いているトールゲートバーを無事通過する技術の開発が行われてきた。APRR のインフラから自動運転車が情報を受け取る仕組みで、工事中の道路やトンネル通過時の作動など、応用も期待されている。

ドイツ 2023年11月21日 Die Autobahn

■ 高速道路 A1 線拡張工事 — 継ぎ目のない車道を実現

A1-Ausbau : 55 LKW und eine fugenlose Fahrbahn

高速道路 A1 線では現在ミュンスター付近を 6 車線へ拡張工事中であるが、2023 年 11 月に長さ 3 km の区間のアスファルト敷設工事が行われた。その際、欧州最大規模のアスファルトフィニッシャーを用いて全幅分 (15.70 m) のアスファルトを一気に敷設し、継ぎ目のない耐候性に優れた表層を実現した。「インライン舗装工法」と呼ばれるこの工法では、2 台の作業車両が連なって走り、1 台目が基層を、2 台目が表層を敷き詰める。基層が熱いうちに表層が敷かれるため層間の接着がよく、車道の寿命が長くなる。今回は合計約 1 万トンのアスファルトを 1 時間当たり 600 トンのスピードで敷設した。

イタリア 2023年11月21日 AUTOSTRADE PER L' ITALIA

■ スマート交通に向けてともに歩む：ポローニャ大学とアウトストラデー・イタリアグループの間で新たな合意が成立

INSIEME PER LA MOBILITA' SMART : UN NUOVO ACCORDO QUADRO TRA UNIVERSITA' DI BOLOGNA E IL GRUPPO AUTOSTRADE PER L'ITALIA

電気自動車の新しい充電装置から高速道路で持続可能なエネルギー生産を実施する技術に至るまで、ポローニャ大学学長とアウトストラデー・イタリア代表取締役が合意した内容は、企業イニシアティブとその発展および開かれた技術革新へと門戸を開くものである。ワイヤレス充電装置のほか、道路表面の変形を遠隔モニターで察知するセンサー技術と走行する車両間における情報交換がその内容に含まれる。専門家同士の新たな出会いを促進し、技術移転分野における学際的な探求を促し、企業の行く末を充実したものにする企画である。

オーストラリア 2023年11月22日 World Highways

■ プーマのバイオベースカーボンバインドが AFPA で受賞

Puma's bio-based CarbonBind an AFPA winner

プーマ・エナジー・ビチューメン社のカーボンバインドプロジェクトは、オーストラリアたわみ性舗装協会 (AFPA) の国家イノベーションアワードを受賞した。カーボンバインドは、通常のアスファルトと少なくとも同等の品質および技術的性能を維持するサステナブルに育てられた植物由来の成分を有するビチューメンの融合である、とスイスに本部を置くプーマ社は述べている。また同社は、これは従来の製品に代わるものであり、ビチューメンおよびアスファルト製品の全カーボンフットプリントを著しく減少させると述べている。

フランス 2023年11月22日 Libération

■ 外環状道路：パリでは 2024 年 9 月から最高速度を時速 50 km に制限しようとしている

Périphérique : Paris veut limiter la vitesse à 50 km / h dès septembre 2024

2024 年 9 月 14 日から首都パリを囲む都市高速道路で最高制限速度が 70 km から 50 km に下げられると同市の市長が 11 月 22 日(木)に発表した。この道路は、1973 年には時速 90 km、2014 年以降は時速 79 km となり、そして 2024 年 9 月 14 日からは時速 50 km に最高制限速度が減速される。このプランを明らかにしたパリ市長の意向としては、2050 年までに炭素排出を 80%削減する目標が背景にあるという。

ドイツ 2023年11月22日 Verkehrsrundschau

■ ドイツ・ポスト、e ハイウェイの架線式トラック実証実験に初参加

Deutsche Post schickt ersten Oberleitungs-Lkw auf den E-Highway

ドイツ・ポスト (DHL) はリューベック～ラインフェルト間で実施される架線式電動トラックの実証実験に参加する。同社によるとこのトラックは 29 トン車で、1 日当たり 80 km 以上を走行、計 3 カ所の配送センターに手

紙および小包を配送できるという。トラックはスウェーデンの商用車メーカーが製造したもので、9個の電池パック（合計 297 kWh）を搭載しており、最大走行可能距離は積載量、路面と天候にもよるが約 250 km とのこと。今回の実証実験「e ハイウェイ シューレスヴィヒ・ホルシュタイン」は、連邦経済・気候保護省の助成を受け国内 3 カ所で行われている架線式トラック実験プロジェクトのひとつであり、実施期間は 2024 年末まで。

フランス 2023 年 11 月 24 日 Eiffage

■ エファージュ・ジェニ・シヴィル社、ノルウェーの高速道路 E18 – E39 新区間工事实施の入札権を獲得

Eiffage Génie Civil remporte la réalisation de la nouvelle section de l'autoroute E18-E39 en Norvège

エファージュ・ジェニ・シヴィル社は、ノルウェーの高速道路の入札受注に成功した。入札額は 2 億 3,400 万ユーロである。エファージュ社は、その系列会社であるエファージュ・ジェニ・シヴィル社を通して、ノルウェーの交通担当省庁が保持する会社スターテンズ・ヴェグヴェーゼン社が提示した立案から施工までの契約を獲得した。ノルウェーのクリスチャンサンで高速道路 E18 – E39 の新区間の工事でガルトネルロッカとコルスダレンを結ぶ。同国の 6 番目の都市で中心街と港湾地帯へのアクセスを実現する主要インターチェンジの容量を増やすのが同契約の目的である。2029 年半ばの工事完了を目指す。

英国 2023 年 11 月 24 日 Highways Magazine

■ 安全戦略において M53 がコンクリートバリアを採用

M53 to get some concrete barrier in safety move

National Highways は、モーターウェイのジャンクション 9 と 11 間の北行き/南行きの路肩と中央分離帯で老朽化した鋼製安全バリアの大部分を交換している。この改善の大きな特徴の 1 つは、中央分離帯の鋼製バリアの一部をコンクリートバリアで置き換えることである。全車線走行計画には標準でコンクリート中央バリアが含まれているが、National Highways は政府がスマートモーターウェイプログラムを一時停止しその後廃止する前に転換される予定であったモーターウェイの区間へこれを適合させている。

米国 2023 年 11 月 28 日 CBS News

■ 徴収の時？カリフォルニア州交通局がプロジェクト初の公共集会でサクラメント～デイビス間の可能性のあるエクスプレスレーンについて議論を促進

Toll time? Caltrans drives debate on possible express lane from Sacramento to Davis at project's first public meeting

カリフォルニア州交通局は、数週間にわたり会談を推進してきたトピック「サクラメントは同市初の有料レーンを導入すべきか？」について同局初の公開討論会を開催した。この 4 億 6,500 万ドル規模のプロジェクトはサクラメント～デイビスの双方向でフリーウェイにエクスプレス有料レーンを加えることを提案している。主要提案は有料レーンに対するものであるが、同局は他の「管理レーン」代替案も検討中と述べており、新たな歩行者/サイクリング施設、モビリティハブ、その他の追加も計画している。

米国 2023 年 11 月 29 日 The New York Times

■ 国家初の渋滞料金プログラムに通行料金 15 ドルの可能性

\$15 Tolls Likely for Nation's First Congestion Pricing Program

米国初の渋滞料金プログラムはニューヨーク市で最終的に具体化されつつあり、多数のドライバーが来春にもマンハッタンのあるいくつかの混雑する通りで 15 ドルを支払うことになりそうである。当局は実施を望む通行料にこれまでで最も明確なビジョンを提示しており、市の地下鉄とバスネットワークの改善資金年間約 10 億ドルを徴収することを目指している。今週提案されたレートは、年明けにもありうる決選投票前の公聴会に付されることになる。メトロポリタン・トランスポートーション・オーソリティーはドライバーへの徴収に必要な電子機器の 60% をすでに設置済みであると述べている。